

東大和市学校規模等のあり方検討委員会（第10回）会議録

1 開催日時

平成23年2月8日（火）午前10時から

2 開催場所

会議棟第2会議室

3 出席者

委員：青野かほる 小川雅義 鈴木一徳 高嶋清和
渡辺理万 菊地明 菊地フミ子

事務局：小島学校教育部長 田代学校教育課長 山崎学務係長

欠席委員：荒川進

4 公開・非公開の別

公開

5 傍聴者数

0人

6 議題

- (1) 港区視察のまとめ
- (2) 視察の候補地について
- (3) その他

7 会議の要旨

- (1) 港区視察のまとめ

【質疑等】

委員長： 港区の小学校を2校視察した中で、理想的な点、参考となるべき点、東大和市としてできる点について意見を出してもらいたい。まず、率直な感想をお願いしたい。

委員： 新しい世界を目の当たりにしてビックリした。港区の新しい学校でどういう風に育つのか。一方で、緑がないなど、今住んでいる環境とはかけ離れた世界を見せてもらった。

東大和市が素晴らしいと発見した。大地、緑、大きな空、鳥が遊んで、子供たちの声が聞こえる。東大和市の良さが発見できた。東大和市の今の学校で、今の校庭で、お母さんたちがなつかしがるような、新しい世

界に向かって開かれるような学校にしていきたい。

委員： 教室の空間の配置が2校とも複雑だった。近代的な小学校を見て、東大和市の小学校の良さを感じた。港区では、施設面や金銭的にも恵まれた環境であるが、東大和市では日当たりが良いなど自然の良さを取り入れており基本的な姿の学校であると感じた。アレルギーの子供たちにとっては、港区の小学校の換気については参考になった。

オープンスペースは、2校にあったが、御成門小学校では、他の教室からの音がうるさく間仕切りを設けていた。港南小学校では、オープンスペースは常にオープンにしておくという考えで、2校それぞれが違う意見であった。

港南小学校では、オープンスペースがとても広がった。広さが確保できなければ、他の教室の声が入り間仕切りが必要になってくるので、オープンスペースを作るのなら、ある程度の広さが必要であると感じた。

ホームページを見ると、御成門小学校は、5校の統廃合をした上で、別の場所に学校を建てたようである。東大和市の学校も老朽化しており、建替えも将来的には考慮する必要があると感じた。統廃合は、現時点ではないとしても、将来的には考えていく必要があると感じた。

委員： 港区の学校の教室の狭さに驚いた。5年生だったか、教室に入りきらない状態だった。どういう意図で教室の広さを決めて作ったのか分からない。オープンスペースがあるのだから、その分教室を広くすればよいと感じた。

施設全体は、整い、充実している。お金がかかっていると感じた。校舎を作るにあたっては、どういう予算で作るか。国の予算か、市だけの予算か、防衛省の補助が入ってくるのか。後で聞かせてほしい。

港区の校庭は、狭く、コンクリート造りで、かわいそうだった。土のグラウンドのほうが良い。東大和市のほうが良いと感じた。

委員： 教育にかける予算が東大和市と違いがく然とした。お金の違いはどうしようもない。お金をかけるといくらでも充実した施設ができると感じた。余裕スペースがたくさんあった。

子供たちが世界に羽ばたいていくとしたら、港区のような施設で教育を受けさせなければならぬのではないかと思った。

学校には、学区内の子供だけではなく、学区外の子供もたくさん来ていた。東大和市内の子供を調整するためには、区域外通学も一つの方法として考えられるのではないか。また、東大和市でも、少人数の学校に施設設備や人的な面を充実して、学校が選択できるように考えていけば、大規模校、小規模校の問題を是正できるのではないかと思う。

東大和市の自然、伝統を生かし、大事にしながらも、教育にもっと予

算をかけていかないといけないのではないか。

委員： 都市化した土地では、あのような施設にならざるを得ない。合理性や利便性のみでは、人を育てるのには不十分であると感じた。

東大和市には、恵まれた自然がある。人と自然が調和した文化都市を目指している面では、東大和市でも、もっと理想的な教育の場ができるのではないか。

港区の小学校の参考とすべきところは、スペースにゆとりがあるところ、落ち着いた安心・安全な施設であるところである。また、多目的に活用できるスペースがあり、教室としての活動だけではなくほかの活動にも使える施設があるところである。図書室の教材が廊下に作っておける。ちょっとした集会やグループワークがすぐにできるというところは、大いに参考にすべきである。

委員： 学校がある場所によって建物も変わってくる。子供たちの生活も変わってくる。東大和市も学校のある場所を生かすような学校になればよい。

委員長： お金があれば、東大和市の自然を生かしたもっと良い理想的な学校ができる。今ある校舎を建て直して新しい学校を作れば港区の学校よりも良い環境ができる。

視察した小学校では、教室が狭かったので、現場の意見を取り入れていなかったのではないか。校舎は、高層化になるほど複雑になる。

見学している最中にオープンスペースを活用した授業を見たかった。東大和市の土のある校庭は、港区に負けてない。港区に負けたところをどう是正していくかがこれからの課題であると感じた。

委員長： 東大和市中で取り入れられそうな、東大和市中で参考にできるところがあるか。

委員： 御成門小学校は、子供の数が少なく、少人数のクラスが多かった。そして、いじめが全くなかった。いじめがないのは人数の関係も大きな要因であると感じた。今後、小学校1年生から35人学級になる予定であるが、いじめの撲滅という点で参考になった。

委員： 御成門小学校では、地域社会といろいろな連携が取れていた。

委員長： 東大和市中も地域との連携が深いと思ったが、御成門小学校では、さらにすごい連携であった。

委員： お祭りを警察署の中でやっているなど連携が強かった。

委員： 地域との連携が強いのは、下町では特にそうである。地域の人たちの学校に対する思い入れが強い。

委員長： 東大和市中は、都市と地方の狭間にある。都市部では、意外に人間関係が強い。東大和市中では、最近ではPTAと連携が薄くなっているように感じる。地域と協力することで、改めて良い教育ができると感じた。

委員： 小規模校を解消するために取っている手続きは、御成門小学校のケースが参考になるのではないか。

委員長： 港区の学校の要望は、施設面でも予算面でも全て実現している。うらやましい。東大和市でも、予算が少なくてもできる工夫はしてあげたい。

事務局： 小規模校のほうが、子供たちへの目が届くと思っていたが、実態を見ると、小規模校でも、意外とトラブルが多い。複数の学級でないことで、他の先生のサポートがないため、先生の力量に全部任されてしまう。

委員： 単学級では、子供たちはずっと一緒に、逃げ場がない。小規模校は、なるべく児童の数を増やす方策を取っていったほうが良いと考えている。区域外から就学する方法を考えていかなければいけない。施設面は、お金をかければ変えられるが、逃げ場のない人間関係を解消するためには、学校の子供の数を増やさなければならない。

委員： 確か、水俣市では、市に小学校が7校あったが、市全体で考えると小学校が4校しかいないということになった。3校の小学校を統廃合する際に、学区域を全部ばらして、新たな学区域を考え、個性ある特色ある学校づくりを考えている。

また、群馬県では、県内のどこからでも入れる学校を作ったと思う。思い切って、全体像の中で、学区域全体で考え、新しい発想を持たないと、予算がない中ではだめなのではないか。

小規模校の先生は、大変である。手一杯である。水俣市のように、思い切って地域全体に呼びかけて考え直さないと、しかもできるだけ早い時点で、学校を建てるよりも前に通学区域を見直さないと、子供たちに弊害がでていていると感じている。

委員長： 一部の学区域を見直せば反対が目に見えている。思い切って、全部の学区域を見直して、統廃合をするという考えがあれば、納得するだろう。

委員： 全市民に呼びかけて、学区域をばらし、全体で同じような人数にしてあげたい。学校の状況は、今の状態よりも良くなる。

委員長： 都心の学校でいじめが少ないのは、放課後の関わりが少なく、学校だけの関わりだからであると思う。学校が一つの集合場所で、それ以外の関わりが少ないからいじめが少ないのではないか。

今の子供たちは、コミュニケーションをとることが苦手なので、小規模校はマイナスである。小規模校では、小さいことにずっとこだわることになるが、人数が多いとそれが薄まる。大規模校を減らしていくよりも、小規模校を減らしていくほうが重要なことである。

委員： 単学級の子供よりも、2学級の子供たちのほうが安定している。学習や遊び、約束がじょうずである。質が高い子供たちが育てられていると感じる。

委員： 単学級でも子供の手当てができるスペースがあればよい。心の教室のような場所が必要である。

また、小規模校には、子どもを増やす方策が必要である。全体の学区域を見直すことは、すぐには無理であるため、小規模校を解消するための方策が必要である。御成門小学校のような方策が取ればよい。

委員長： 大規模校だから人手が必要というだけではなく、小規模校だからこそ人の手当が必要である。

委員： 中学校だと、心のケアで別の教室で教えていると、親からなぜ別の教室で勉強を教えるのかと疑問の声が出てくる。

委員長： その他に参考となる点、対応可能な点があるか。地域との関わりは、学校経営の問題になる。

委員： 児童数の調整でできそうなこととして、学区域の全部を変えることは難しいと思うが、区域外からの通学者を募ることは可能である。

委員長： 学校選択制の中でも小規模校が募集をかけることは、これから模索していくことではないか。

委員： 小規模校では、魅力ある学校経営をしてもらう。教育委員会は、小規模校に人的な面や欠点になっている面を補充するような環境を作ってあげる。予算も投入する。そして、学校を選択制を良しとするようにする。

委員長： 東大和市の場合は、これまでは、全校全て平等でという考えで来た。小規模校に手厚くし、少人数学習を他校に比べて倍ぐらい行うなど、セールスポイントを作る。

委員： 小規模校をできるだけ減らした方がよいという考えから、統廃合して小さい学校をつぶすという考えはいけないと思う。

今ある東大和市の学校は、全部生かしていかなければならないと思う。お金がないから小さな学校をつぶすという考え方は問題がある。将来の人口を見てみても、東大和市は子供の数が安定しているのではないか。

委員長： 今のところ、この検討委員会では、学校をなくすという意見は出ていない。

事務局： もともとのところでは、九小と七小のあたりでは、少人数、単学級があることから、うまく統廃合ができないかという意見が過去に議会からも出ている。

この検討委員会の中で、できれば統廃合が必要か否かの話を聞かせてもらえないかと考えている。

委員： 市教委の考えとしては、統廃合の考え方はないということによいか。

事務局： この検討委員会では、統廃合についても意見をお願いしたいと考えている。南側の地域では、マンションがかなりできているので、児童生徒

が減っていない。20年のスパンで見れば、南側の地域でも高齢化が進むかもしれないので、長期的にはそのあたりの状況を踏まえた意見をもらいたい。

委員： 今までの話の中では、統廃合の話はしたことがない。

委員長： 中長期的には、統廃合の話は、出てくるかもしれないが、これまでは、話したことない。

(2) 視察の候補地について

事務局： 配布資料の説明

「東大和市学校規模等のあり方検討委員会の視察先等について（案）」

【内容】

事務局： 視察先については、東久留米市教育委員会と西東京市教育委員会を提案したい。

委員長： 場所については、事務局案が良い。日程は、5月中の火曜日を考えた

委員： 4月に予定している検討委員会では、視察先で聞いてみたいことを検討する。地域の反応、公表した時から説明会までの内容や課題など、事務局もそうだが、あり方検討委員会でも理解しておけば、参考になる。

事務局： 日程は、5月17日を第1候補日として、先方の都合で前後の火曜日を案としたい。

(3) その他

【質疑等】

委員長： 35人学級の実施は、順次ずれてきそうな状況である。

事務局： 小学校1年生の35人学級の実現は何とかかなりそうだが、それ以外の学年は実施が不確定になっている。

委員： 校舎の新設や増設の流れや財政的な内容が分かっていたほうが良いと思う。

事務局： 調べて次回にお答えしたい。

委員長： 大規模なマンションや宅地造成をすると、業者は、一部公園などを作らなければならないが、学校についての協力はないのか。

事務局： 宅地開発指導要綱の中で任意の寄付という形で協力してもらった規定があり、二小の増築の時にもマンション業者と交渉して、寄附金をもらった。宅地開発指導要綱は廃止され、今は、街づくり条例の中で、南側の地域のマンションの計画の際にも一定のお願いをしたいと考えている。